

昭和 37 年度事務および事業報告

昭和 37 年 4 月から 38 年 3 月に至る間に行った事務および事業の概要は次のとおりである。

1. 会 員

正員・准員の移動

	正 員	准 員	合 計
入 会	632	921	1,553
転 出	(+) 499	(-) 499	0
退 会	402	53	455
死 亡	51	3	54
差 引	(+) 678	(+) 366	1,044

事業維持員の移動

	社 数	口 数
入 会	22	28
退 会	11	13
差 引	11	15
口 数 増 加	15	78
期 末 現 在	391	1,223.5

期末会員数

	37年 3 月末	38年 3 月末	増 減
名 誉 員	10	19	(+) 9
正 員	14,179	14,857	(+) 678
賛 助 員	2	2	0
維 持 員	380	391	(+) 11
准 員	2,002	2,368	(+) 366
合計	16,573	17,637	(+)1,064

備考 正員中「終身会員」は 857 名

名誉員の推薦 昭和 37 年 4 月役員会は、米沢与三七、百田貞次、密田良太郎、正木良一、清水与七郎、高尾直三郎、安川第五郎、梶井 剛、抜山平一、瀬藤象二の 10 君を名誉員に推薦し、5 月 26 日通常総会において推薦状を贈呈した。

38 年 1 月 20 日名誉員前会長安藤弥輔君が逝去した。

支部別 正・准員数 昭和 38 年 3 月末現在の支部別正・准員数は次の如くである。

	正 員	准 員	計
東京支部	7,417	886	8,303

関西 "	2,749	654	3,403
九州 "	874	168	1,042
東北 "	575	125	700
東海 "	1,399	209	1,608
中国 "	734	53	787
北海道 "	403	71	474
北陸 "	348	63	411
四国 "	358	139	497
合計	14,857	2,368	17,225

2. 会合数

本期間の諸会合数は 847 回で前期に比し 36 回を増加した。

通常総会	1 回
役員会	4 回
理事会	11 回
事業維持委員会	1 回
編修委員会	15 回
ニュース委員会	12 回
学界時報委員会	12 回
広告改善委員会	12 回
雑誌改善委員会	13 回
連合大会委員会	5 回
功績者選定委員会	4 回
桜井資金選考委員会	1 回
創立 75 周年記念事業準備委員会	29 回
日本学術会議会員候補者選定委員会	2 回
電気規格調査会	200 回
調査研究委員会	376 回
研究委員会	32 回
通信教育会	95 回
CIGRE 国内委員会	3 回
電熱工学委員会	4 回
その他	15 回
合計	847 回

3. 定款、電気学会規則および諸規程の改正

(1) 定款および電気学会規則の改正(5月) 正員会費を月額 170 円(半年 1,000 円, 1 カ年 2,000 円)

准員会費を月額 85 円(半年 500 円 1 カ年 1,000 円)とし、終身会員制度を復活して在会年限と 1 時納付金額などの細目を定め、雑誌辞退の特例会員制度を廃止した。また賛助員の 1 時納付の物件または金円の額を 100 万円以上と改め、4 月にさかのぼり適用することとした。(詳細、会誌 37 年 7 月号本会記事「50 回通常総会」欄参照)

(2) 功績者表彰関係規程の改正(9月) 従来の「浅野賞電力賞規程」と「電気学術振興賞規程」を合併して「電気学会褒賞規程」とし、浅野賞の名称を電気学会功績賞、電気学術振興賞中の文献賞の名称を著作賞と改め、また各賞には賞牌と副賞の賞金を贈呈することとし、その他の細目をも改正した。(詳細、会誌 37 年 10 月号本会記事参照)

(3) 調査研究委員会規程および同細則の改正(9月) 小委員会名称の簡単化、調査専門委員会の調査期間、専門委員会の設置提案、委員の規正および選定手続き、専門委員会の経費と委員の車代などに関する事項を改正した。(詳細、会誌 37 年 10 月号本会記事参照)

4. 創立 75 周年記念事業の準備

昭和 38 年は、本会の創立 75 周年に当るので、電気学会創立 75 周年記念事業準備委員会において、諸準備を進め、記念式典ならびに祝宴を今秋 10 月 22 日(火)に開催することとし、また記念事業として「電気学会 75 年史」と「電気学術技術発達史(仮称)」の出版にもとりかかり、おおた脱稿の域に達し、近く印刷にかかる状態となった。

また「会誌記念号」の発行も予定している。

5. 功績者の表彰

37年5月26日第50回通常総会において、次の諸君に賞状および賞金を贈呈した。

浅野賞 竹山 説三君
 電力賞 小山田惣次郎君
 同 竹内 五一君
 電気學術振興賞

進歩賞 { 上之園親佐君
 中村 宏君
 有働 竜夫君
 川合 幹雄君
 青木 勇君
 沢田 嘉嗣君
 同 小島 哲君
 同 { 長谷川竹夫君
 八木 四郎君
 同 { 山田三三郎君
 近藤 滉君
 大窪 協君
 小室 和男君
 論文賞 梅津 照裕君
 同 { 馬場 準一君
 林 重雄君
 同 宮入 庄太君
 文献賞 林 重恵君

6. 桜井資金による

海外派遣者

本期間における桜井資金による海外への派遣者は、日高一彦、藤高周平の2君で、いずれも5月にパリで開催された CIGRE 大会に出席したものである。

なお、38年度における派遣者としては、38年5月英国にて開催される CIGRE 第15研究委員会に出席する藤井新兵衛君を決定した。

7. 大会

37年電気四学会連合大会は、4月3日から6日にわたり東京にて開催し、また10月から11月にかけて

は各支部において、それぞれ支部大会を開催した。一般講演件数は表示のとおりで、前年に比し214件を減少した。

	36年	37年	増減
全 国大会	1,670	1,342	-328
東京支部大会	324	340	+16
関 西 "	266	340	+74
九 州 "	59	94	+35
東 北 "	142	99	-43
東 海 "	156	128	-28
中 国 "	20	36	+16
北 海 道 "	53	58	+5
北 陸 "	23	30	+7
四 国 "	34	66	+32
合 計	2,747	2,533	-214

備考 (1) 全国大会では、特別講演4件、シンポジウム9課題・講演54件のほか、懇親会、見学会および電気関係製品カタログ展示会を開催した。懇親会には夫人同様の参加がありまた婦人向き見学会、観光会をも催した。
 (2) 東京支部大会は電気学会支部単独で開催し、他の支部では電気関係学会各支部との共催である。

8. 講演会・講習会・見学会

本期間に開催した講演会などは合計113回で、前年度に比し6回を増加した。

	講演会	講習会	見学会	合 計
本 部	—	—	—	—
東京支部	7	2	4	13
関西 "	15	2	3	20
九州 "	6	—	4	10
東北 "	10	—	1	11
東海 "	6	1	3	10
中国 "	9	1	4	14
北海道 "	10	1	1	12
北陸 "	4	1	2	7
四国 "	11	—	2	13
茨城支所	2	—	1	3
合 計	80	8	25	113

備考 (1) 講演会回数中には学術講演会および通俗講演会および映画会を含めた。

(2) 関西支部講演会中の7回は准員および学生を対象として、他大学教授の講義を、交換教授

の形式として各地大学で開催したもので、学生の学会に対する認識を深め、学会への入会を促進するための、新しい試みである。

9. 雑 誌

本期間には、次の12冊が発行となった。(38年3月号は印刷上の事情により4月3日発行)

巻・号	年・月	発行年月日	総ページ数
82・883	37・4	37・4・23	284
884	5	5・22	284
885	6	6・22	234
886	7	7・21	310
887	8	8・22	274
888	9	9・22	238
889	10	10・26	240
890	11	12・3	274
891	12	12・28	282
83・892	38・1	38・1・30	246
893	2	2・25	194
894	3	4・3	260

以上12冊の総ページ数は、3,120ページで前期3,238ページに比し、118ページの減となった。

また1冊平均は260ページで、前期270ページに比し10ページ減となった。欄別ページ数を示すと次の如くである。

欄	前期	本期	増減
み どころ	12	12	0
寄 書	19	16	-3
資料・論文(含特集・討論)	1,324	991	-333
講 演	28	23	-5
委員会報告	16	41	+25
技術綜説	86	129	+43
学 界 時 報	356	449	+93
特 許 紹 介	48	48	0
ニ ュ ー ス	57	69	+12
会 員 の 声	0	0	0
そ の 他	3	20	+17
小 計	1,949	1,798	-151
目次・会告・会報	84	70	-14
本 会 記 事	89	97	+8
巻目次(含連合大会目次)	64	78	+14
製 品 紹 介	28	28	0
広 告*	1,024	1,049	+25
小 計	1,289	1,322	+33
合 計	3,238	3,120	-118

* 表紙広告、綴込広告を含まない。

なお、雑誌の改善については、再三にわたる与論調査などの意見に対し、雑誌改善委員会を設け、雑誌と論文集の発行、その他の諸案につき検討の結果、しばらくは雑誌一本建とし、記事を「随想・論説・講演・解説・座談会記事等」と「資料・論文」とに2分した読みよいものとし、また表紙その他の体裁も新たににして、38年4月号から実施することとした。

10. ETJ of Japan

本期間には、第7巻1, 2号を発行し、論文14件83ページ、トピックスは6件2ページである。

また邦文雑誌の巻頭に英文の内容梗概をつけた「海外版」は、37年3月号～11月号の9冊を発行し、英文欄の総ページ数は83ページである。

11. 技術報告

本期には次の5冊を発行した。

1. I. E. C. Recommendations for mercury arc converters for reversible power.
2. I. E. C. standard frequencies for centralized control installations.
3. Revision of I. E. C. Publication 38: Standard system voltages.
4. Recommendations for tests on non-draining paper-insulated metal-sheathed cables for alternating voltages from 10 kV up to and including 35kV (excluding gas-pressure cables).
5. Recommendations on cable selection.
6. Specifications for A. C. motors capacitors.
7. Draft methods for determining synchronous machine quantities from tests.
8. Use of the same symbol for a physical quantity and for the (dimensionless) ratio of that quantity to a "reference" or other agreed-upon value of the same quantity.
9. Supplementary IEC draft recommendation for mercury-arc converters for A.C. transmission.
10. Recommendations for high-voltage test techni-

号	発行年月	ページ数	報告件数
51	37・6	53	5
52	" 7	40	1
53	" 10	143	1
54	" 12	54	4
55	38・3	83	2

12. 出版

- (1) 電気工学年報・昭和37年版 2月
- (2) 電気学会名簿・昭和37年版 3月
- (3) 電気工学ポケットブック・ジュニア版 7～8版 オーム社から発行
- (4) 電気規格 初版5点, 重版31点 電気書院から発行
- (5) 電気学会電気専門用語集 No.1「増幅発電機」および同 No.2「電気炉」をコロナ社から発行
- (6) 通信教育教科書 初版5点 重版48点(詳細は後記のとおり)

13. 電気規格

新設した委員会

積算計器標準特別委員会

指示計器標準特別委員会
電子計器標準特別委員会
しゃ断器標準特別委員会
小委員会
ケーブル標準特別委員会
裸電線標準特別委員会
OF ケーブル高電圧試験標準特別委員会

解散した委員会

積算無効電力計標準特別委員会
誘導機標準特別委員会

規格の制定および改訂

JEC-155 半導体整流装置(その
1) ……セレンおよび酸化銅整流装置
JEC-156 避雷器……JEC-131の改訂

規格の廃止

JEC-131 避雷器

IEC 原案に対する意見

国際電気標準会議 (IEC) よりの照会原案に対し、当会が審議し回答案を作成したものは、つぎのとおりである。

- ques.
11. Measurement of partial discharges during high voltage tests.
12. Proposals of the French National Committee for the revision of I.E.C. Publication 34-1: Recommendations for rotating electrical machinery.
13. I. E. C. Recommendations for on-load tap-changers
Group 1: Switching and mechanical tests.
Group 2: Dielectric tests.
14. Graphical symbols—Examples of resistors.
15. Change of names of the electric and magnetic characteristics of free space designated by the names: "permittivity of free space" "permeability of free space".
16. Assignment of the name of the Russian scientist "Lenz" to a unit of the Giorgi system.
17. Definitions of the quantities:—magnetic current—magnetic current density.
18. International electrotechnical vocabulary—Group 66-detection and measurement of ionizing radia-

- tion by electric means.
19. Symbols for architectural diagrams.
 20. I. E. C. Recommendations for Pylister power converters—Secretariat's introduction.
 21. Proposed revision of Document 38 (S) 16: Capacitor voltage transformers.
 22. Proposals for revision of Publication 99-1: Recommendations for lightning arresters—Part I: Non-linear resistor type arresters.
 23. International electrotechnical vocabulary—Group 26—Nuclear power plants for electric energy generation.
 24. Dimensional standard for indoor and outdoor post insulators with a rated voltage greater than 1,000 V.
 25. International electrotechnical vocabulary—Group 37—Automatic control and regulating equipment.
 26. Recommendations for meters with maximum demand indicators.
 27. Recommendations for alternating-current watt-hour meters.
 28. Amendments to Document 15 (CO) 19: Test procedure for the evaluation of the thermal endurance of enamelled wire—Part I: evaluation by loss of electric strength.
 29. Recommended methods of testing the dielectric constant and dissipation factor of electrical insulating materials up to 1,000 MHz (Mc/s).
 30. Tests on fully impregnated, paper insulated, metal sheathed cables for alternating voltages from 10 kV, up to and including 66 kV (Excluding gas pressurized and oil filled cables).
 31. Recommendations for relays.
 32. Recommendations for electronic voltmeters.
 33. Recommendations for dimensions of cylindrical graphite electrodes for arc furnaces.
 34. Recommendations for electric radiant heat lamps—basic characteristics.
 35. Standardization of small motors used in electrical measuring instruments.
 36. Recommendations for class 1.0 alternating current watt-hour meters.
 37. Recommendations for safety requirements for electronic, electrical and electrically measuring instruments and their accessories.
 38. Specification for aluminium conductors, steel reinforced.
 39. Specification for aluminium stranded conductors.
 40. Specification for aluminium alloy stranded conductors (Aluminium-magnesium-silicon type).
 41. Recommendations for voltage transformers: Part 5, Capacitor voltage transformers.
 42. Recommendations for the colours of the cores of flexible cables and cords.
 43. Graphical symbols—Semiconductor devices.
 44. Proposal by W. G. 4 for Section IV—Tappings of the draft revision of I. E. C. Publication 76.
 45. Request by the Secretariat for information regarding national practice concerning the locking device of ball and socket couplings of string insulator units.
 46. Specification for Edison screw lampholders.
 47. Amendments to Document 38 (CO) 7: Recommendations for current transformers.
 48. Recommended standard conditions for use during the preconditioning, conditioning and testing of solid electrical insulating materials.
 49. Amendments to table 3 of I. E. C. Publication 56-4: Specification for alternation current circuit-breakers.
 50. I. E. C. Recommendations in the field of quantities and units used in electricity.
 51. Revision of Publication 99-1: Recommendations for lightning arresters—Part I: Non-linear-resistor type arresters for alternating current systems.
 52. Draft dimension standard for indoor and outdoor post insulators intended for system voltages greater than 1,000 V.
 53. Recommendations for tests on large hollow porcelains intended for use in electrical installations.
 54. Draft testing specification for indoor and outdoor post insulators with a rated voltage greater than 1,000 V.
 55. Plastics-insulated and rubber-insulated mains cables.
 56. Supplement to Publication 71: Insulation Coordination.
 57. Recommendation concerning the designation of the quantities characterizing the magnetic and electric properties of vacuum and a substance.
 58. Standard methods of test for electric strength of insulating materials at power frequencies.

59. Supplement to chapter I of Publication 56-1, Appendix III-four parameter specification of restriking voltage transients. Definitions and evaluation of inherent restriking voltage.
- 60 I.E.C. Recommendations for solid-core insulators for overhead traction lines at a voltage greater than 1,000 V.
61. Cavitation tests, of the international test code for

- hydraulic turbines using laboratory models for acceptance tests.
62. System voltages above 220 kV.
63. Revision of I.E.C. Publication 38 : Standard system voltages.
64. Proposal concerning the protection of electrical equipment against mechanical damage and tests for the corresponding verification.

JIS 原案作成

- 年度中に日本工業標準規格 (JIS) の原案を提出したものは、つぎのとおりである。
- (1) 屋内用支持がいし
- (2) JIS C 1210 交流積算電力計 (改訂案, 中間報告)
- (3) JIS C 1211 広範囲交流積算電力計 (")
- (4) JIS C 1212 精密交流積算電力計 (")
- (5) JIS C 1213 普通交流積算電力計 (")
- (6) JIS C 1214 耐候形交流積算電力計の構造 (")
- (7) 電気機器の定格電圧 (中間報告)

調査中の規格

- (1) 標準用語 (湿気・給電・電鉄・放射線・半導体などに関する用語)
- (2) JEC-34 標準電圧の改訂
- (3) JEC-106 衝撃電圧試験の改訂
- (4) JEC-107 衝撃電圧測定法の改訂
- (5) 交流電圧試験 (一般規格) の作成
- (6) JEC-140 コンデンサ形計器用変圧器の改訂
- (7) JEC-143 計器用変成器 (継電器用) の改訂
- (8) JEC-114 同期機の改訂
- (9) JEC-54 直流機の改訂
- (10) JEC-125 断路器の改訂
- (11) JEC-91 気中しゃ断器の改訂
- (12) JEC-113 電力ヒューズの改訂
- (13) JEC-120 静止誘導機器の改

訂

- (14) 半導体整流装置—その2— (シリコンおよびゲルマニウム整流装置) の作成
- (15) 保護継電器関係規格の作成
- (16) 水車効率試験方法規格の作成
- (17) 屋外支持がいし規格の作成
- (18) ボールソケット形懸垂がいし規格の作成
- (19) JEC-74 イ号アルミ合金線の改訂
- (20) JEC-121 ABC 一重鉛被・鋼帯鎧装・二重鉛被防食ケーブル防食層の改訂
- (21) JEC-130 アルミ電線の改訂
- (22) JEC-139 ブチルゴム電力ケーブルの改訂

その他

- (1) 航空無線・半導体・断路器・増幅発電機・電気炉関係用語および JEC 中の用語の一部を文部省「学術用語集, 電気工学編」に加えるよう要請した。
- (2) 「変圧器の油中コロナ測定法の検討」の原案の審議が終り, 技術報告に発表の予定
- (3) IEC Publication と JIS および JEC との関連について調査した。

14. 調査研究

新設した委員会

- 積算電力計寿命専門委員会 (調査)
- メーザ・レーザ専門委員会 (")
- 電力系統工学専門委員会 (研究)
- 製鉄工業専門委員会 (常置)
- 標準電子回路専門委員会 (")
- 原子力計測専門委員会 (")

VLF 標準周波数受信回路専門委員会 (調査)

- 工場配電専門委員会 (")
- 接点材料専門委員会 (")
- 機器用絶縁電線専門委員会 (")

解散した委員会

- 耐熱区分専門委員会 (調査)
- 誘電加熱専門委員会 (")
- 製鉄工業専門委員会 (") ……
- 常置専門委へ改組
- 標準電子回路専門委員会 (")
- … "
- 原子力計測専門委員会 (") ……
- … "
- 電子装置使い方専門委員会 (")
- 電力用通信電源専門委員会 (")

調査完了項目

〔教育研究〕

- (1) 内外電気関係研究機関の実態調査報告 (技報 55 号)
- (2) 諸外国における高等教育の現状について (技報予定)
- (3) 各国大学学部における電気関係科目調査 (")

〔電気物理〕

- (4) 超低温における固体の現象と電子工学における応用
- (5) 半導体のひずみ抵抗効果とその応用
- (6) 半導体プラズマの問題
- (7) 半導体の光電効果 (ホトエミッションおよび EL)

〔電子回路〕

- (8) 12V—2A 用過負荷防止回路付トランジスタ式安定化電源 (技報予定)
- (9) 12V—1A 用過負荷防止回路付トランジスタ式安定化電源 (技

- 報予定)
- (10) 現用電子回路部品(抵抗器・コンデンサ)の実情調査(技報予定)
- (11) 新形回路部品の動向調査(技報予定)
- (12) 高安定発振器の設計, 動作原理, 発振回路などの調査(技報予定)
- (13) 周波数標準に関する調査(技報予定)
〔電子装置〕
- (14) 電子ビームの諸問題(構成, 性質, 応用, ノイズ)について
- (15) 電子管材料(陰極, 光電面, けい光体, ガラス, セラミック, 溶封合金, ゲッタなど)の最近の動向調査および問題点の検討
- (16) 高真空技術の最近の動向調査および問題点の検討
- (17) 電荷制御法の適用範囲と測定法(IECに答申)
- (18) 半導体用語の審議
- (19) 単接合トランジスタ関係用語の審議(電子機械工業会の依頼による)
- (20) 加速器による照射技術の問題点(ガンマ線および電子線の場合)
- (21) 放射線化学に必要な線量
- (22) 放射線化学に関する特許
- (23) 熱電発電, 熱電子発電, MHD 発電の現況調査
- (24) 燃料電池の一般事項
- (25) 熱磁気, 熱誘電, 超電導発電について
〔電気機器〕
- (26) 船用突極同期発電機短絡電流簡易計算式(技報 54 号)
- (27) 界磁電流算定法(JEC 案)
- (28) 同期発電機の非同期運転に関する調査(CIGREへ答申)
- (29) 同期機の電氣的平衡(JEC案)
- (30) 励磁系速度(技報予定)
- (31) 同期機の加速定数(JEC案)
- (32) 誘導機の漂遊負荷損(技報58号)
- (33) 整流子の荒損原因の調査
- (34) 整流火花の分類法
- (35) 1962年CIGRE変圧器関係論文の検討
- (36) 避雷器用語対応表(日・英・独・仏・ソおよびIEC)
- (37) 高圧および特別高圧進相コンデンサのJIS改訂原案の作成
- (38) 磁気増幅器の跳躍(その2)
(技報 57 号)
〔電力〕
- (39) 送電線の短時間電流量について(技報予定)
- (40) EMG・MMG・MG方式交流無停電電源装置仕様基準(技報予定)
- (41) EG方式交流予備電源装置(技報予定)
- (42) 誘導形・静止形交流自動電圧調整器(技報予定)
- (43) 電気学会専門用語「給電」編原案作成
- (44) OFケーブルの交流および衝撃電圧試験法(技報予定)
- (45) 250mm懸垂がいし5ヶ連および長幹がいし8017の等価霧中法による持ち回り試験および結果の整理, ならびに問題点の検討
- (46) 棒ギャップ, がいしの開閉サーージ, フラッシュオーバー試験の実施および実測結果の取りまとめ(CIGREの依頼による)
- (47) 絶縁耐力試験の意義について
〔電気鉄道〕
- (48) 電鉄負荷の把握と線区に応じた整流器容量の選定(技報予定)
〔電気材料〕
- (49) シリコン, ゲルマニウムの相成長
- (50) 半導体結晶内の格子欠陥(含, 加工ひずみ)
- (51) 半導体装置への応用
- (52) PN接合の特性
- (53) シリコン中の不純物拡散
- (54) グラフト重合材料の機械的・電氣的性質, グラフト濃度分布
- (55) 照射架橋ポリエチレンの化学架橋ポリエチレンとの比較検討
- (56) ポリカーボネート, ナイロン, 酸化ポリエチレンの誘電特性
- (57) 照射ポリエチレン, 照射塩化ビニルなどの電気伝導
- (58) ワニスとポリスチレン, マイラコンデンサの照射効果
〔電気化学・電熱〕
- (59) 英国 CERL 国際会議に提出されたコロナ劣化関係論文の検討
- (60) 標準資料として, ポリエチレン, 隔壁材料としてテレックス, マイラックスを委員に配布, IEC法コロナ劣化による重量減少ならびに赤外吸収特性の測定
- (61) 上記予備測定結果を検討し, 標準装置および実験条件の調査
〔電力応用〕
- (62) 補機を対象とした分塊圧延機の運転状況調査(技報 59 号)
- (63) 製鉄工業における制御用エレクトロニクス装置使用状況調査(技報 59 号)
- (64) 連続熱間鋼板および帯鋼仕上げ圧延機ならびに連続冷間圧延機の実態調査(技報 59 号)
- (65) 製鉄工業における補機用定電圧直流電源の実態調査(技報 59 号)
- (66) 電気設備腐食状況調査(技報 予定)
- (67) 荷役機械用電気品の法規上の問題点について
- (68) AISE No.6 Crane Service Data の調査方法
- (69) AISE No.1-A と JEM 1065 1066 の比較
〔オートメーション〕
- (70) 電子式プロセス制御装置(技報 56 号)
- (71) AD変換器(技報 58 号)
- (72) 電子計算機の活用に関する調査結果(技報 60 号)
〔原子力〕
- (73) 動力炉の計算機制御に関する

- 文献調査
- (74) 原子炉雑音解析に関する国内各機関の研究状況
- (75) X線・電子線・中性子線用のシンチレータの問題点(技報予定)
- (76) 測定技術面からみた半導体検出器の現状と問題点
- (77) 放射線関係用語の原案作成
- (78) 国内の核融合およびプラズマ研究の状況
- 研究専門委員会研究発表項目**
- (1) 電力潮流のデジタル計算
(概説——国内の現況——データハンドリングと自動プログラム——逐次近似計算法における解の収束——収束不良問題および収束判別法——拘束条件の選定, 移相変圧器の取扱い——系統制御への応用——デジタル計算機による電力潮流計算の経験——電力潮流のデジタル計算について——電力系統の潮流計算プログラム——潮流特性を利用した Nodal 計算法——拘束条件が不等式で与えられる場合のデジタル電力潮流計算——電力潮流デジタル計算の最適加速係数について——電力潮流反復デジタル計算の収束に関する理論的一考察——電力潮流計算の収束について)
- (2) デジタル計算機による短絡電流の計算(定常状態)
(概説——故障計算の問題点——三相短絡故障電流の Node 法による計算——Clark 座標法による故障計算——電力系統故障計算法——多重故障計算法)
- (3) 微小入力磁気増幅器
- (4) シンフィルムパラメトロン素子の試作
- (5) SR の自動パラメトリック振動現象の解析
- (6) 磁性薄膜とその応用
- (7) 電子計算機における最近の磁気応用の動向
- (8) 非線形増幅について
- (9) 矩形ヒステリシスフェライトコア
- (10) 磁心トランジスタ形計算機素子
- (11) 矩形鉄心を用いた A-D 変換およびスキャナ
- (12) 磁性薄膜の履歴特性
- (13) 強磁性薄膜記憶装置
- (14) 過励振における磁気変調器の動作
- (15) 磁気変調器における残留倍周波
- (16) Fe-Ni 磁性材料の結晶方位と磁気的性質
- (17) マイクロ波用フェライトについて
- (18) 角形ヒステリシス Mo パーマロイ
- (19) 鉄ニッケル薄膜の一軸異方性(HK)について
- (20) 磁気素子の番地選択への応用
- (21) マイクロ波フェライトの半値幅の自動測定法
- (22) 大容量コアマトリクス
- (23) 高周波における低損失フェライトとその応用
- 調査中の項目**
〔電気物理〕
- (1) 絶縁物のコロナによる劣化機構
- (2) コロナの電氣的諸量の定量
- (3) コロナに伴なう特異現象の解明(たとえば N₂ ガス中のコロナなど)
〔電気測定〕
- (4) 積算電力計の寿命調査
〔電子回路〕
- (5) トランジスタ式 DC-DC コンバータおよび DC-AC インバータの標準回路
- (6) SCR 式 DC-DC コンバータおよび DC-AC インバータ標準回路
- (7) 回路部品の放射線照射効果の調査
- (8) 超小形複合部品の調査
- (9) 能動部品と受動部品との複合の工法についての調査
- (10) 負性抵抗, 負性キャパシタンス, 負性インダクタンスなどの調査
- (11) 3動作高安定水晶発振器の性能試験
- (12) VLF 標準周波数の利用による高安定周波数標準校正法の調査〔電子装置〕
- (13) 電子管の将来性について(半導体に対向した諸問題の追求など)
- (14) 電荷制御法について
- (15) マイクロエレクトロニクス
- (16) 放射線化学と加速器(報告書)
- (17) パラメトリック増幅器
- (18) ハーモニックジェネレータ
- (19) 標準雑音源
- (20) 熱電発電
- (21) 燃料電池の実際
- (22) メーザ・レーザの各種方式の基礎的調査
- (23) 各種メーザ・レーザ共振材料の研究調査
- (24) メーザ・レーザの各種応用に関する研究調査
〔電気機器〕
- (25) 同期機温度上昇試験法
- (26) 同期試験規程
- (27) 同期機等価インピーダンス
- (28) 同期電動機に対する要求事項
- (29) 同期機リアクタンスの飽和係数
- (30) 二重かご形誘導機の回路定数
- (31) 誘導機の特性格定法(主として円線図と計算法および定数)
- (32) ブラシ摩耗の調査
- (33) 整流火花の分類法
- (34) 直流機の過渡特性を示す定数の表わし方
- (35) 油入変圧器試験指針
- (36) 避雷器の耐量試験結果の検討
- (37) 避雷器に関する外国情報の収集
- (38) 電力用コンデンサ・直列リア

- クトルの JIS 改訂原案の作成
- (38) 37年度における日本全国の電力用コンデンサの施設状況調査
- (40) しゃ断器類の過電流時の温度上昇
- (41) 近距離線路故障しゃ断
- (42) 工場配電系統の現状調査
- (43) 工場配電用機器仕様の現状調査
- (44) 工場における系統および機器の接地の現状調査
- 〔電力〕
- (45) 定電力負荷配電線の電圧降下の計算
- (46) 配電網の電流分布の計算
- (47) V結線灯動共用配電方式における変圧器ローディング曲線の計算
- (48) 二次コンデンサの経済性に関する計算
- (49) 負荷分布の不均一を考慮した配電線の設計
- (50) 変電所騒音防止方法の調査
(実施例ならびに機器本体の騒音軽減策など)
- (51) 電力線搬送用結合装置仕様基準の作成
- (52) 電力用通信用語の解説
- (53) 電力系統の自動給電
- (54) 中性点接地装置運用要項
- (55) 交流高電圧の測定方法
- (56) がいしの人工汚損試験法
- (57) 懸垂がいし・長幹がいしの霧中定員法による持ち回り試験および測定結果の比較検討
- (58) 開閉サージフラッシュオーバー試験法
- (59) 内部絶縁に対する開閉サージフラッシュオーバー試験
- 〔電気鉄道〕
- (60) 国鉄(8線区)・私鉄(22線区)のき電回路および保護装置の設備調査
- (61) 上記資料をもとに、き電回路の故障電流、保護能力などを調査・計算

- 〔電気材料〕
- (62) 可聴周波におけるケイ素鋼板試験方法
- (63) シリコン蒸着膜、モレクトロニクス
- (64) シリコンのライフタイム、再結合の研究
- (65) PN接合の特性(マイクロプラズマ)
- (66) シリコンの高不純物濃度の拡散層
- (67) 現用原子力関係機器の有機材料の放射線劣化
- (68) 有機材料の劣化判定の基準および放射線照射による改質
- (69) 現用接点装置(開閉接点)の材質・形状・接触力・動作速度・動作ひん度・回路条件・火花消去回路・周匝条件・保守方法・寿命などの調査および問題点の提起
- 〔電線〕
- (70) 絶縁電線の使用条件の調査
- (71) 絶縁電線の使用条件に対する特性(絶縁特性、許容電流と短時間特性、耐熱特性など)
- (72) 絶縁電線の試験法
- 〔電気化学・電熱〕
- (73) 標準資料(ポリエチレン)、隔壁資料(テレックス、マイカレックス)のIECコロナ劣化法による重量減少ならびに赤外吸収特性の測定および標準実験装置、実験法の検討
- 〔電力応用〕
- (74) 製鉄工場における直流整流子・ブラシの条痕および異常摩耗の調査
- (75) 製鉄工場における環境および被害状況調査
- (76) 大形回転機の保守・検査基準について
- (77) 製鉄工場の配電設備ならびに配電方式に関する調査
- (78) 各種化学工場における腐食性雰囲気と電気設備の腐食状況の調査報告の作成

- (79) クレーン使用状態調査
- (80) 重作業用クレーン保守状況調査
- (81) クレーン電動機容量算定基準
- (82) クレーン電動機のJEM規格改訂案の調査
- (83) 荷役機械用電気品標準仕様作成
- (84) 荷役機械用電気品関係現行規格の改訂調査
- 〔原子力〕
- (85) 沸騰水形動力炉の動特性と制御
- (86) 原子力発電所と電力系統との連系
- (87) 動力炉の計算機制御の国内研究状況
- (88) 原子力計測回路の半導体化の現状と問題点
- (89) 放射線関係用語に関する定義の検討
- (90) 外国における核融合およびプラズマ研究の状況
- (91) MHD発電に関する国内外研究状況の調査およびとりまとめ

15. 通信教育

通信教育の概況

当年度内新入受講生は、大学講座1,436名、工高講座1,028名、また、修了者は、大学講座2,530名、工高講座1,181名であって、期末現在数は、大学講座7,119名、工高講座5,788名で、総数12,907名である。講座別内訳は次のとおりである。

なお、文部省の認可により課程の新設、分割および受講料の改訂を実施した。

講座別	新入生数	修了者数	期末現在数
理論 第1科	787	467	3,301
同 第2科	78	0	78
測定 第1科	67	527	678
同 第2科	12	0	12
機械 第1科	112	111	692
同 第2科	21	0	21
発電電 第1科	36	639	976
同 第2科(火力)	2	0	2

同第3科(原子力)	4	0	4
送配電材	61	59	525
材	71	61	145
高電圧	6	0	6
電気鉄道	27	24	185
電応用第1科	24	341	120
同第2科	1	9	1
電気法規	59	59	195
電子工学第1科	56	242	172
同第2科	6	0	6
(大学講座小計)	(1,436)	(2,530)	(7,119)
工高第1科	553	402	2,730
同第2科	177	175	1,194
同第3科	104	530	1,058
同第4科	59	74	671
電気数学	135	0	135
(工高講座小計)	(1,028)	(1,181)	(5,788)
合計	2,468	3,711	12,997

教材の出版

当年度内に発行された教材は、初版の教科書5点、学習指導書4点、また、重版では教科書48点(通計137版)である。内訳は次のとおりである。

初版教科書

- (1) 電気鉄道ハンドブック(電気鉄道講座)
- (2) 電気応用(工高講座)
- (3) 電気計測(工高講座)
- (4) 発電・変電(工高講座)
- (5) 電気数学Ⅲ(工高講座)

学習指導書

- (1) 電気鉄道(電気鉄道講座)
- (2) 電気材料便覧(電気材料講座)
- (3) 電子工学(工高第4科)
- (4) 電気数学Ⅰ(工高電気数学)

重版教科書

- (1) 電気磁気学(57~63版)
- (2) 電気回路論(50~54版)
- (3) 過渡現象論(36~38版)
- (4) 放電現象(32~34版)
- (5) 原子物理学(23~25版)
- (6) 基礎電子工学(13~16版)
- (7) 電気磁気測定Ⅰ(32~35版)
- (8) 同Ⅱ(23,24版)
- (9) 同Ⅲ(10~12版)
- (10) 測定値の取扱法(7版)
- (11) 応用計測(3~5版)
- (12) 直流機(26~30版)
- (13) 変圧器(39~43版)

- (14) 誘導機(33~36版)
- (15) 同期機(28~31版)
- (16) 水銀整流器(21,22版)
- (17) 特殊機器(9版)
- (18) 遮断器,開閉器(10,11版)
- (19) 電機設計概論(23~25版)
- (20) 変電工学(22~24版)
- (21) 水力編Ⅰ(21,22版)
- (22) 同Ⅱ(14版)
- (23) 送電編Ⅰ(34~36版)
- (24) 同Ⅱ(30~32版)
- (25) 同Ⅲ(24,25版)
- (26) 配電編(27,28版)
- (27) 高電圧工学Ⅰ(12版)
- (28) 同Ⅱ(7版)
- (29) 電熱工学(14~16版)
- (30) 電力応用Ⅱ(9~11版)
- (31) 電気関係法規解説(15~17版)
- (32) 電気工作物規程(改18~20版)
- (33) 工作物規程解説(4版)
- (34) トランジスタ(13~17版)
- (35) 改訂電気材料(6~10版)
- (36) 自動制御(11,12版)
- (37) 改訂電気鉄道(6,7版)
- (38) 電鉄ハンドブック(2,3版)
- (39) 電磁事象Ⅰ 組合版(28~31版)
- (40) 同Ⅱ 組合版(22~24版)
- (41) 電気計測 組合版(16,17版)
- (42) 電気機械Ⅰ 組合版(21,22版)
- (43) 同Ⅱ 組合版(17,18版)
- (44) 送電・配電 組合版(14~16版)
- (45) 電子工学 組合版(2版)
- (46) 電子工学(2版)
- (47) 電気数学Ⅰ(3版)
- (48) 電気数学Ⅱ(2版)

編修の概況

教材編集進行中のもの(18点)、改訂準備中のものおよびその他については、次のとおりである、

編修中の教材

- (1) 発電電講座 2点(火力編Ⅰ,同Ⅱ)
- (2) 電力応用講座 3点(電灯照明Ⅰ,同Ⅱ,電気化学)
- (3) 電子工学講座 4点(電気通信概論,電子管,電子回路,電子計算機)
- (4) 電気数学講座 3点(分冊未定)
- (5) 工高講座 4点(電気法規,電気一般,自動制御,電気材料)
- (6) 高専講座 2点(電気数学Ⅰ同Ⅱ)

改訂準備中の教材

- (1) 電気理論,電気機械工学,発電変電工学,送配電工学各講座全教科書
- (2) 工高検定教科書 1点(送電・配電)

スライド製作等

工高講座程度の機械部門(4種)スライド製作進行中にて第1回作品「直流機」90%完成

検定教科書

文部省検定工業高等学科教科書の本年度の総供給数は151,980冊で、各冊の内訳は次のとおりである。

- (1) 電気理論Ⅰ 32,127冊
- (2) 同Ⅱ 17,850冊
- (3) 電気機器Ⅰ 13,570冊
- (4) 同Ⅱ 10,633冊
- (5) 電磁事象Ⅰ 2,810冊
- (6) 同Ⅱ 9,278冊
- (7) 電気計測 31,922冊
- (8) 電気機械Ⅰ 12,155冊
- (9) 同Ⅱ 13,249冊
- (10) 送電・配電 8,386冊

通信教育行事,その他

- (1) 昭和37年4月22日,文部大臣表彰式に大学講座4名,工高講座3名合計7名が受彰した。
- (2) 昭和37年4月22日,お茶の水女子大学にて受講生大会を開催した。
- (3) 昭和37年11月25日,徳島市徳島中学校にて,文部省指導

のもとに秋季全国大会スクーリングを開催した。

(4) 本年度中実施した会議、会合つぎのとおり……

委員総会 2 回、理事会 11 回、編修、指導、スライド各委員会 計 82 回、合計 95 回

16. 国際会議

IEC 関係

本年度第 27 回大会は、6 月 24 日より 7 月 7 日まで 2 週間ルーマニアの首都ブカレストで開催された。参加国は 28 カ国、参加者は 763 名で、日本よりは電気規格調査会会長山下英男君を団長に 24 名が出席し、各 TC を分担して出席した。総会では、日本代表より 1965 年に大会を招致したい希望が述べられ、次回大会で決定されることになった。

CIGRE 関係

第 19 回大会が 5 月 16 日より 26 日までパリで開催された。参加国は 50 カ国、参加者は 1930 名で、日本よりは藤高周平君を団長に 24 名が出席した。発表された論文は 126 編で、日本よりは 6 編が提出された。

第 20 回大会は、1964 年 6 月 3 日～13 日間パリで開催されるが、この大会に提出する論文 6 編の選考が今年度に行なわれた。

UIE 関係

第 5 回国際電熱工学会議は、1963 年 9 月 30 日より 10 月 5 日まで、ドイツの Wiesbaden において 4 年

ぶりに開催されるが、日本よりは 11 編の論文を選考し提出することになった。

その他

学会を通して代表が出席した国際会議に、つぎのようなものがあった。

会議名 (開催月日)	場 所	出席者
原子炉安全性および災害評価技術に関するシンポジウム (5 月 16 日～20 日)	ウィーン	山田大三郎 (電試)
IEC 半導体装置部会 (10 月 2 日～12 日)	コペンハーゲン	北村 覚一 (電試)
IEC 超高圧および電力用変圧器部会 (11 月 6 日, 9 日)	パリおよびブリッセル	宮本 茂業 (東芝)

17. その他

- (1) 日本学術会議第 6 期会員候補者として、全国区に林重憲、星合正治、米沢滋の 3 君、地方区に片山辰雄、永井健三、丹羽保次郎、篠原卯吉の 4 君を推薦し(7 月)、林重憲、星合正治、米沢滋、永井健三、丹羽保次郎、篠原卯吉の 6 君が当選した。(11 月)
- (2) 1963 年秋、本邦にて開催する国際電波科学連合会議に対しては、これを後援することとし、その組織委員として岡村総吾君を選出していたが、同委員を滝保夫君に更任した。(7 月)
- (3) 9 月仙台で開催した IAHR キャピテーション及び水力機械国際会議を後援した。

- (4) 東京にて開催した品質管理大会を共催した。(9 月)
- (5) Le Clare 元 AIEE 会長米邦に際しては、東京支部主催で講演会を開催したが、本会としても観迎のパーティを催し、記念品を贈呈した。(10 月)
- (6) 東洋レーヨン株式会社研究助成応募者 3 名を推薦した。(10 月)
- (7) 電気事業主任技術者制度 50 周年記念事業を協賛し、記念論文審査委員として三好義太郎君を選出した。(11 月)
- (8) 1963 年 10 月本邦において開催する電磁継電器に関する国際会議 (ICER-1963) を後援することとし、準備委員として藤波恒雄君を選出した。(11 月)
- (9) 文部省科学研究費等分科審議会委員候補者として、斉藤幸男、藤高周平の両君を推薦した。(12 月)
- (10) 日本工業会定例講演会、見学会等諸行事を後援した。
- (11) 電気記念日の行事共催に参加した。(3 月)
- (12) 英国電気学会雑誌の特価購入の斡旋をした。
- (13) 1963 年ドイツにて開催する国際電熱会議を後援することとした。(3 月)
- (14) 世界動力会議東京部会 (1966 年 10 月) 準備委員会を後援することとした。(3 月)

昭和 37 年度 会 計 報 告

(1) 一般会計, 調査会計, 出版会計収支計算書

収 入 の 部

科 目	一 般 会 計	調 査 会 計	出 版 会 計	合 計
会 費 収 入	5,243,335	8,431,645	17,446,379	31,121,359
正 員 会 費	5,046,100	0	15,138,513	20,184,613
准 員 会 費	0	0	1,154,559	1,154,559
入 会 金	197,235	0	0	197,235
終身会費取くずし金	0	0	397,432	397,432
維 持 員 会 費	0	8,431,645	755,875	9,187,520
利 子 収 入	751,273	0	0	751,273
雑 誌 領 布 収 入	0	0	1,845,541	1,845,541
図 書 領 布 収 入	0	0	10,080,186	10,080,186
広 告 収 入	49,000	0	19,745,100	19,794,100
補 助 金	0	268,000	0	268,000
雑 収 入	480,864	227,854	130,496	839,214
臨 時 特 別 会 費 収 入	1,450,000	0	0	1,450,000
繰 越 金	0	0	0	0
繰 入 金	500,000	0	0	500,000
合 計	8,474,472	8,927,499	49,247,702	66,649,673

支 出 の 部

科 目	一 般 会 計	調 査 会 計	出 版 会 計	合 計
事 務 所 費	387,000	405,300	2,255,053	3,047,353
事 務 費	1,043,970	3,113,663	8,760,164	12,917,797
会 議 費	55,780	58,420	325,030	439,230
通 信 費	70,770	74,210	413,024	558,004
集 金 費	191,570	200,620	1,116,234	1,508,424
旅 費	3,160	3,310	18,430	24,900
職 員 退 職 給 与 金	271,310	336,490	1,372,200	1,980,000
諸 税	3,220	0	121,050	124,270
諸 会 費	21,500	0	0	21,500
支 部 費	3,111,900	0	0	3,111,900
大 会 費	0	0	0	0
賞 金 費	112,343	0	0	112,343
電 気 規 格 調 査 会 費	0	2,864,098	0	2,864,098
調 査 研 究 委 員 会 費	0	3,565,968	0	3,565,968
連 合 調 査 会 費	0	90,000	0	90,000
雑 誌 出 版 費	0	0	27,070,506	27,070,506
図 書 出 版 費	2,848,491	0	8,306,042	11,154,533
75 周 年 記 念 準 備 費	168,172	0	0	168,172
事 務 所 拡 張 資 産 取 得 費	314,340	0	0	314,340
事 務 所 拡 張 諸 経 費	44,170	0	0	44,170
合 計	8,647,696	10,712,079	49,757,733	69,117,508
差 引 過 不 足	-173,224	-1,784,580	-510,031	-2,467,835

(註) 一般会計および調査会計の不足金は特別積立金より繰入補填す。
出版会計の不足金は出版会計損益計算書に移す。

(2) 出版会計損益計算書

科 目	収 入	科 目	支 出
収 入	49,247,702	支 出	49,757,733
期末未収入金	10,495,886	期首未収入金	7,550,865
期末売掛金	1,706,937	期首売掛金	2,915,454
期末商品	2,648,368	期首商品	3,125,368
		期末未払金	1,367,597
		退職給与引当金繰入	300,000
合 計	64,098,893	合 計	65,017,017
		収支過不足	918,124

(3) 出版会計損金処分

本期不足金	918,124 円
前期繰越損金	4,111,298 円
合 計	5,029,422 円

を後期繰越損金とする。

(4) 欠損処分

死亡、退会、除名による未納会費
で収入の見込のない

正員会費 1,497,700 円

准員会費 165,800 円

合 計 1,663,500 円

を欠損処分とする。

(5) 出版会計収支細別

科 目	収 入			科 目	支 出		
	雑 誌	図 書	計		雑 誌	図 書	計
正員会費	15,138,513	0	15,138,513	出版費	27,070,506	8,306,042	35,376,548
准員会費	1,154,559	0	1,154,559	事務費	2,080,546	597,120	2,677,666
終身会費取くずし金	397,432	0	397,432	共通費分担	9,093,634	2,609,885	11,703,519
維持員会費	755,875	0	755,875	合 計	38,244,686	11,513,047	49,757,733
領布収入	1,845,541	10,080,186	11,925,727				
広告収入	18,842,500	902,600	19,745,100				
雑収入	130,496	0	130,496				
合 計	38,264,916	10,982,786	49,247,702	差引過不足	+20,230	-530,261	-510,031

(注) 事務費および共通費分担は収入の比により雑誌 77.7%、図書 22.3% に分割した。

雑誌出版費原価(1冊) 27,070,506円÷216,700=125円

〃 総原価(1冊) 38,244,686円÷216,700=177円

(6) 別途調査費

種 別	収 入			支 出	収支残 (次年度繰越)
	繰越金	受入金	計		
電食防止委	(-) 9,894	1,382,900	1,373,006	1,704,821	(-) 331,815
誘導調整委	143,436	500,000	643,436	159,400	484,036
CIGRE 国内委	1,560,678	2,856,900	4,417,578	3,137,875	1,279,703
電熱工学委	123,176	630,000	753,176	619,075	134,101
合 計	1,827,290	5,369,800	7,187,196	5,621,171	1,566,025

(7) 資 金 利 子

種 別	収 入			支 出	収 支 残 (次年度繰越)
	繰 越 金	利 子	残		
(1) 賞 金 資 金	12,417	42,400	54,817	37,000	17,817
(2) 浅 野 資 金	3,235	1,827	5,062	1,000	4,062
(3) 岩 垂 資 金	225,707	28,987	254,694	18,400	236,294
(4) 日 立 資 金	61,421	18,200	79,621	0	79,621
(5) 日 本 発 送 電 資 金	2,870,848	400,000	3,270,848	100,000	3,170,848
(6) 東 北 配 電 資 金	140,545	100,000	240,545	100,342	140,203
(7) 九 州 配 電 資 金	18,781	75,000	93,781	70,000	23,781
(8) 桜 井 資 金	845,769	1,060,261	1,906,030	1,475,897	430,133
合 計	4,178,723	1,726,675	5,905,398	1,802,639	4,102,759

〔使途〕 (1) 賞金資金：電気学術振興賞金の一部 (2) 浅野資金：浅野賞金の一部 (3) 岩垂資金：ルクレール博士観迎費 (5) 日本発送電資金：支部講習会費補助 (6) 東北配電資金：電力賞費 (7) 九州配電資金：通俗講演会費補助 (8) 桜井資金：CIGRE 大会出席費補助

(8) 貸 借 対 照 表 (昭和 38 年 3 月 31 日現在)

資 産 の 部				負 債 の 部			
科 目	公 益	収 益	計	科 目	公 益	収 益	計
有 価 証 券	20,166,265	0	20,166,265	基 本 財 産	180,150	0	180,150
信 託 預 金	1,117,643	0	1,117,643	賞 金 資 金	530,000	0	530,000
定 期 預 金	20,000	0	20,000	寄 附 金	17,755,013	0	17,755,013
銀 行 預 金	1,912,385	0	1,912,385	特 別 積 立 金	11,025,870	0	11,025,870
振 替 預 金	80,309	0	80,309	固 定 資 産 特 別 資 金	14,190,440	0	14,190,440
現 金	38,014	0	38,014	職 員 退 職 給 与 金	500,000	0	500,000
権 利 金	3,366,000	0	3,366,000	同 給 与 引 当 金	0	300,000	300,000
敷 金	990,000	0	990,000	別 途 調 査 費 勘 定	1,566,025	0	1,566,025
設 備 造 作	7,518,100	0	7,518,100	資 金 利 子 勘 定	4,102,759	0	4,102,759
備 品	2,433,526	0	2,433,526	雑 勘 定	233,640	0	233,640
仮 払 金	261,213	108,812	370,025	納 税 預 り 金	65,595	0	65,595
立 替 金	1,983,846	0	1,983,846	仮 受 金	5,205,485	0	5,205,485
未 収 入 金	0	10,495,886	10,495,886	未 払 金	0	1,367,597	1,367,597
売 掛 金	0	1,706,937	1,706,937	出 版 勘 定 元 入 金	2,854,152	0	2,854,152
商 品	0	2,648,368	2,648,368	公 益 勘 定 流 用 金	0	18,321,828	18,321,828
繰 越 損 金	0	5,029,422	5,029,422				
出 版 勘 定 流 用 金	18,321,828	0	18,321,828				
合 計	58,209,129	19,989,425	78,198,554	合 計	58,209,129	19,989,425	78,198,554

(9) 通信教育特別会計

収支決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
講座収入	5,774,262	教材費	33,618,962
配布収入	48,926,467	業務費	6,102,771
雑収入	342,485	管理費	13,586,962
前払金戻入	78,000	予備費	1,731,680
合計	55,121,214	合計	55,040,375
		差引残	80,839
		内訳 { 当期残	2,839
		前払金戻入	78,000
当期収入計	55,121,214	当期支出計	55,040,375
前期繰越計 (当座)	138,764	後期(当座) 繰越計(有価)	70,453 149,150
	55,259,978		55,259,978

損益計算書

昭和 37 年 4 月 1 日から昭和 38 年 3 月 31 日まで

収入勘定		支出勘定	
科目	金額	科目	金額
期末売掛金	20,069,859	期首売掛金	15,231,945
期末商品	9,306,318	期首商品	9,108,697
期末原材料	2,003,290	期首原材料	1,531,980
期首未払金	3,319,525	期末未払金	5,337,500
期首前受金	1,468,000	期末前受金	896,000
収入金	55,043,214	教材費	33,618,962
内訳 { 講座収入	5,774,262	業務費	6,102,771
配布収入	48,926,467	管理費	13,586,962
雑収入	342,485	原価償却費	2,000
価変準備金戻入	827,000	貸倒準備金繰入	200,000
		価変準備金繰入	920,000
		退職金引当繰入	400,000
		当期剰余金	5,100,389
	92,037,206		92,037,206

利益金処分

(i) 公収益利益配分

当期剰余金	5,100,389
公益分 (10.6%)	540,651
収益分 (89.4%)	4,559,738

(ii) 利益金処分案

当期剰余金	5,100,389	納税引当金	1,500,000
(前期繰越金)	(1,163,889)	別途積立金	3,500,000
税金取崩残	616,569	後期繰越	716,958
合計	5,716,958	合計	5,716,958

決算後貸借対照表

(昭和 38 年 3 月 31 日)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金	26	未払金	5,337,500
預金	60,285	前受金	896,000
貯金	10,142	元入金	5,500,000
有価証券	6,037,967	別途積立金	19,500,000
前払金	3,660,000	厚生積立金	3,000,000
売掛金	20,069,859	貸倒準備金	1,050,000
商品	9,306,318	価変積立金	920,000
原材料	2,003,290	退職引当金	2,738,429
備品	6,000	納税引当金	1,500,000
		後期繰越	716,958
	41,153,887		41,153,887

昭和 38 年度予算 (案)
(1) 一般会計, 調査会計, 出版会計

科 目	収 入 の 部			
	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
会 費 収 入				
正 員 会 費	3,249,000	4,998,000	16,748,000	24,995,000
准 員 会 費	0	0	2,141,000	2,141,000
入 会 金	190,000	0	0	190,000
終身会費取らずし金	250,000	0	250,000	500,000
維 持 員 会 費	0	8,154,000	1,641,000	9,795,000
小 計	3,689,000	13,152,000	20,780,000	37,621,000
利 子 収 入	1,067,000	0	0	1,067,000
雑 誌 頒 布 収 入	0	0	1,828,000	1,828,000
図 書 頒 布 収 入	0	0	9,552,000	9,552,000
雑 誌 広 告 収 入	0	0	21,475,000	21,475,000
図 書 広 告 収 入	0	0	2,302,000	2,302,000
補 助 金	0	350,000	0	350,000
雑 収 入	302,000	200,000	151,000	653,000
合 計	5,058,000	13,702,000	56,088,000	74,848,000
資金利子収入より繰入金	450,000	0	0	450,000
75 周 年 事 業 "	800,000	0	0	800,000
特 別 積 立 金 "	1,000,000	0	0	1,000,000
通 信 故 育 会 "	500,000	0	0	500,000
総 計	7,808,000	13,702,000	56,088,000	77,598,000

科 目	支 出 の 部			
	一般会計	調査会計	出版会計	合 計
事 務 所 費	337,000	567,000	2,448,000	3,352,000
事 務 費	1,691,000	2,802,000	8,400,000	12,893,000
議 費	47,000	79,000	340,000	466,000
通 信 費	51,000	87,000	376,000	514,000
集 金 費	123,000	209,000	895,000	1,227,000
旅 費	3,000	5,000	17,000	25,000
職 員 退 職 給 与 金 税 費	43,000	73,000	315,000	431,000
諸 会 費	31,000	0	0	31,000
	26,000	0	0	26,000
支 部 会 費	3,060,000	0	0	3,060,000
大 会 費	200,000	0	0	200,000
賞 金 費	450,000	0	0	450,000
電 気 規 格 調 査 会 費	0	2,755,000	0	2,755,000
調 査 研 究 委 員 会 費	0	5,056,000	0	5,056,000
連 合 調 査 会 費	0	138,000	0	138,000
雑 誌 出 版 費	0	0	32,180,000	32,180,000
図 書 出 版 費	0	590,000	8,646,000	9,236,000
75 周 年 記 念 準 備 費	700,000	0	500,000	1,200,000
" 繰 入 金 費	0	300,000	500,000	800,000
減 価 償 却 計	0	0	0	0
予 備 費	1,046,000	1,041,000	1,471,000	3,558,000
総 計	7,808,000	13,702,000	56,088,000	77,598,000

(2) 通信教育特別会計

科目	収 入	科目	支 出
講座収入	4,960,000	教材費	34,070,000
配布収入	51,680,000	業務費	5,530,000
雑収入	480,000	管理費	15,120,000
		予備費	2,400,000
合計	57,120,000		57,120,000

昭和 38 年度役員

(左側 38 年度, 右側 38・39 年度)

会 長	林 重憲
副 会 長	田中直治郎 藤高 周平
同	井上文左衛門 篠原卯吉
総務理事	川上 寿一 堀 一郎
会計理事	中路 幸謙 永井 勝三
編修理事	井上清二 阿部善右衛門
同	寺尾 満 宇都宮敏男
調査理事	藤波 恒雄 井原 芳雄
支部長	
(東 京)	荒川 康夫
(関 西)	有馬 純信
(九 州)	大桑 寛
(東 北)	福島 弘毅 (38・39年度)
(東 海)	柿 米一郎 (38・39年度)
(中 国)	潮見 公安
(北海道)	林 邦雄 (38・39年度)
(北 陸)	藤宗 寛治
(四 国)	鈴木 喜彦
評議員	
(東 京)	磯部 直吉 後沢 通弘
	岩田 隼 古新居 憲
	斉数賢次郎 酒井 正利
	富田 弘平 関根 泰次
	肥後 本男 堀井 武夫
(関 西)	伊達 恕一 桑原 道義
(九 州)	宮副 泰 藤野 義一
(東 北)	高橋 正 三瓶 久利
(東 海)	岡部 隆博 上田 実
(中 国)	梶原勘三郎 宮崎 貢
(北海道)	小沢 保知 末広 英二
(北 陸)	高木 金生 長田 晋吾
(四 国)	奥田善一郎 平井 滋二